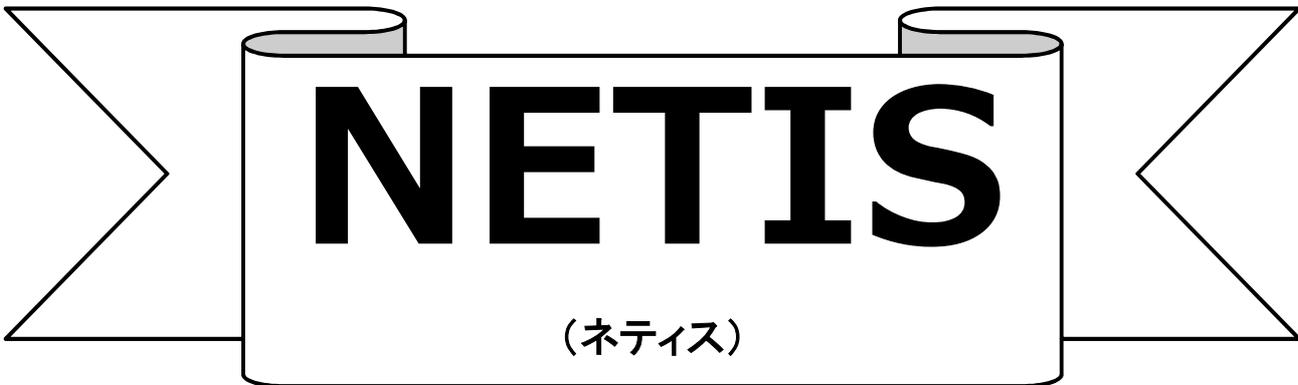


New Technology Information System

The logo features the word "NETIS" in a large, bold, black sans-serif font. It is centered within a white rectangular banner that has a 3D effect, with a grey shadow on the top and bottom edges. The banner is flanked by two white, ribbon-like shapes that taper to points, extending outwards.

NETIS

(ネティス)

～新技術情報提供システム～

申請書類作成マニュアル
(関東技術事務所 申請用)

※本システムが実行できるのは、Internet Explorer 6.0以上のブラウザがインストールされている
WindowsVISTA、Windows7上ですので、あらかじめご了承ください。

< 目 次 >

1. 新技術情報入力システムのインストール手順	… p. 1～
2. 新技術情報入力システム(様式2)の作成要領	… p. 2～
3. 技術詳細説明資料(様式3)の作成要領	… p. 18～
4. 比較表(様式4)の作成要領	… p. 22～
5. 申請書(様式1)の作成要領	… p. 25
6. コンピュータウイルスについての作成要領	… p. 26
7. 電子媒体資料目次についての作成要領	… p. 27
8. 提出書類一覧	… p. 28

1. 新技術情報入力システムのインストール手順

1. 以下のサイト(NETIS新技術情報提供システム)にアクセスして下さい。
http://www.netis.mlit.go.jp/NetisRev/Application/NE_Prg_Download.asp?TabType=4
2. ■新技術の申請方法 『様式2 技術概要説明資料』をクックして下さい。



3. 以下の最新バージョンをダウンロード後、プログラムをインストールして下さい。

インストーラのダウンロード

新技術情報入力システムのインストーラをこのページからダウンロードして下さい。
(ダウンロードには時間がかかる場合があります。)
インストーラは圧縮されています。
ダウンロードの前にフォルダを作成し、そこにダウンロードすることをおすすめします。
(フォルダ作成の仕方については、[ここ](#)を参照して下さい。)

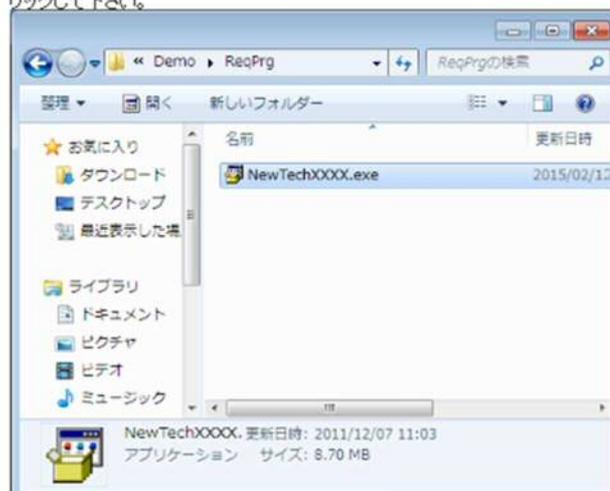
建設版	港湾版
最新バージョン Ver7.804 (2019/2/12 更新) NewTech7804.exe(約 8,700KB)	港湾版は以下のサイトからダウンロードしてください。 港湾NETISのダウンロードサイト

インストーラの解凍

ダウンロードした状態では、新技術情報入力システムのインストーラは圧縮されていますので、まずインストーラを解凍する必要があります。

解凍は以下の手順で行って下さい。

1. インストーラの圧縮ファイルNewTechXXXX(バージョン番号).EXEをダブルクリックして下さい。



メニュー画面

新規作成
新規のデータを作成できます。

編集
「入力されている新技術一覧」にて選択したデータの内容を編集できます。

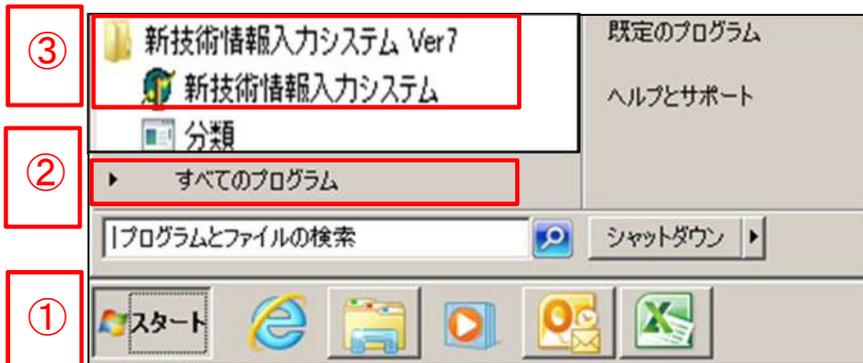
削除
「入力されている新技術一覧」にて選択した新技術情報を削除できます。
★注)一度削除したデータを復帰することはできません。

データ取り込み
一度、提出用データを再度読み込ませることができます。

提出ファイル作成
新技術一覧にて選択した技術を提出用ファイルとして保存できます(1技術のみ)。

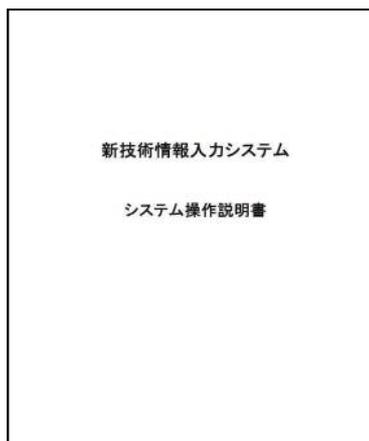
技術名称
編集及び提出したい技術名の上にて一回左クリックをすると選択されます。

※「新技術情報入力システム」を立ち上げる際は、①「パソコンのスタートプログラム」から②「すべてのプログラム」を開き、③「新技術情報入力システムV7」のフォルダを開き、「新技術情報入力システムのアイコン」を立ち上げて下さい。



※詳しい操作方法については、「新技術情報入力システムシステム操作説明書」を参照して下さい。

<http://www.netis.mlit.go.jp/NetisRev/Explanation/MainExplanation.asp?TabType=1>



名称・分類等(その1)

重要
保存ボタン
 各項目に記入後は「保存」のボタンを押してから「メニュー」へ戻して下さい。

副題
 技術の用途等を明確にした「副題」を記入して下さい。
 例: コンクリート構造物の漏水部止水工法

情報提供範囲
 公開の範囲を選択して下さい。
 原則、「一般」を選択して下さい。

技術開発年・記入年月日
 「技術開発年」は、申請技術が実験等により成立性が確認され、公共工事等での実用が可能と判断された年を半角で記入して下さい。
【注意事項】
 実験等実施状況で記載の日付と合わせて記入して下さい。
 実験等実施状況 2017年10月20日
 ↓
 技術開発年 2017年

キーワード(自由記入)
 「自由記入」の欄には、技術提案を端的に表現する言葉を3つまで記入することができます。
 ※下記表2を参照して記入して下さい。

技術名称
 新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書(様式1)で記載した技術名称と同じ名称を記入して下さい。
 例: ●●工法、◆◆製品、▲▲システム、★★材料
【注意事項】
 ①他社で商標登録されていないか。
 ②既にNETISに登録されている技術名称と同一でないか。
 ③名称に新をつけたり型番や会社名を入れないか。

分類・区分(→分類)
 分類をプルダウンメニューより、レベル1~レベル4まで選択して下さい。
 分類が複数あるものは、分類2以降も入力して下さい。
【注意事項】
 分類については、申請した新技術を主として活用される分類(工種)を記入して下さい。
 新技術の登録後、活用件数が5件以上となり評価地整にて評価する際に適用となる工種は「分類1」です。
 但し、従来技術との比較については、分類1に記載した工種で比較して下さい。

分類・区分(→区分)
 「工法」、「材料」、「機械」、「製品」、「システム」の5つから選択して下さい。
 ※下記表1を参照し選択して下さい。

開発目標
 最大3つまで選択して下さい。

キーワード
 最大3つまで選択して下さい。

表1. 区分の定義 **※開発目標とキーワードで整合を取って下さい。**

工法	材料、機械、製品、システム等を組み合わせることにより、工事の一部あるいは全体を完遂させるに足る方法
材料	公共工事等において、加工、添加等されることにより用を成す原料、資材
機械	公共工事等に用いる建設機械、作業用機械
製品	公共工事等により製作、築造される物を構成する一部材であり、新たな加工を要さないもの
システム	材料、製品、機械等が体系的に組み合わせられ、公共工事等における工法、調査方法等を支援するものや、IT等の先端技術を利用した情報システム、施工管理や維持管理に利用するマネジメント技術などを指す

※分類・区分にご不明な点がございましたら、申請・相談窓口にご相談して下さい。

表2※活用の効果が「向上(短縮)」している項目がチェックの対象となります。

キーワード 3つまで	コスト削減・生産性の向上	自由記入欄に「工程短縮」を記入	公共工事の品質確保・向上	安全・安心	自由記入欄に「施工性」を記入	環境 景観 リサイクル	伝統・歴史・文化	情報化
開発目標 3つまで	経済性の向上 省人化	その他の()に「工程短縮」と記入	品質の向上 耐久性の向上	安全性の向上	省力化 省人化 施工精度の向上	周辺環境への影響抑制 地球環境への影響抑制 省資源・省エネルギー 作業環境の向上 リサイクル性向上	その他の()に上記3項目に合う単語を記入	開発目標の中から該当するものを選択
活用の効果 (P10参照)	経済性	工程	品質	安全性	施工性	周辺環境への影響	その他	その他

名称・分類等(その2)

開発体制

「開発体制」は、単独か共同研究のうち1つを選択して下さい。
【共同研究(産・産)】とは民間同士の共同開発。
【共同研究(産・官)】とは民間と官の共同開発。
【共同研究(産・学)】とは民間と学術機関の共同開発。

開発会社

申請する新技術を開発した会社名(正式な会社名称)とし、複数の場合は該当する会社名を全て記入して下さい。

★注)複数記入する場合は、会社名と会社名との間に「、」(区切り)を記入して下さい。

問合せ先

【技術】申請する新技術の技術的対応可能な問合せ先と担当者名を記入して下さい。
【営業】申請する新技術の営業に関する問合せ先と担当者名を記入して下さい。(技術と同じ場合にも記入して下さい。)
【その他】共同開発または営業関連企業を記入して下さい(上限40件)。

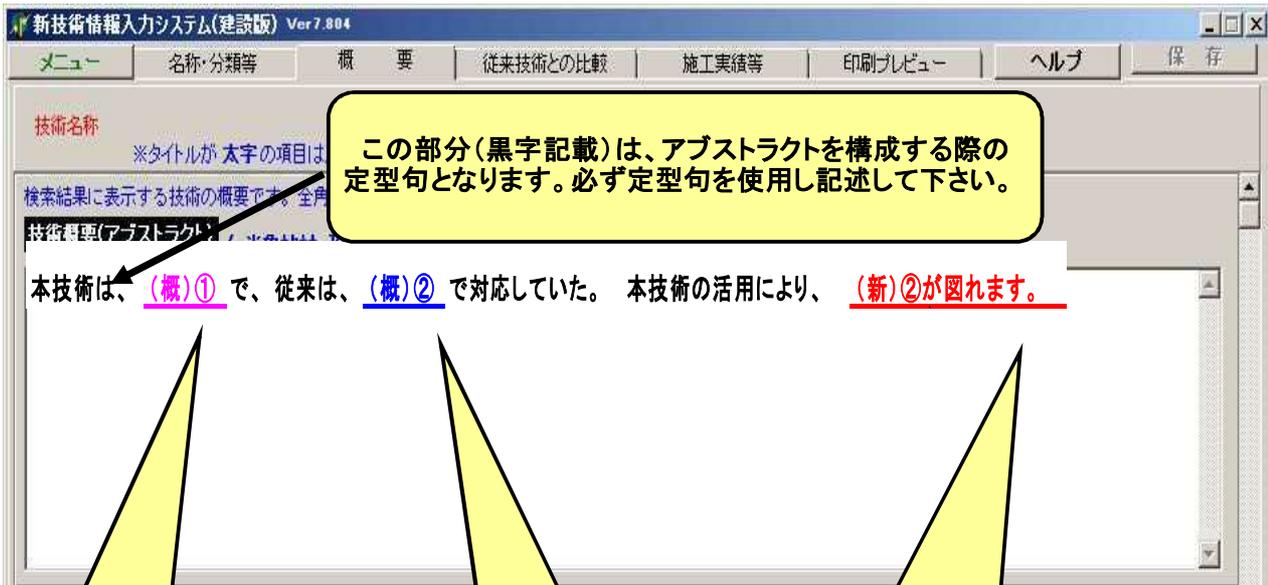
※ 問合せ先の内容に間違いがないか確認して下さい。

【同意書】

※開発会社と申請者【新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書(様式1)記載】が異なる場合、または開発体制が共同開発の場合は、以下の例を参考に同意書を提出して下さい。(様式は自由)

同意書見本

平成 年 月 日
<p>② ○○株式会社 ○○○○殿</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">NETIS登録同意書</p> <p>①□□株式会社は、②○○株式会社が、③○○工法をNETIS登録することに同意いたします。</p>
<p>① 会社名 □□□□(株) 代表者名 □□□□ 社印 所在地 □□□□ 電 話 □□□□</p>
<p>注)①技術開発各社の名称 ②申請を行う会社等 ③申請を行う技術名称</p>



この部分(黒字記載)は、アブストラクトを構成する際の定型句となります。必ず定型句を使用し記述して下さい。

本技術は、(概)①で、従来は、(概)②で対応していた。本技術の活用により、(新)②が図れます。

(概)①とは、概要:①何について何をする技術なのか? で記載した内容。
○○○○工法

(概)②とは概要:②従来はどのような技術で対応していたのか? で記載した内容。
△△工法

(新)②とは新規性及び期待される効果:②期待される効果は?(新技術活用のメリットは?)で記載した内容で得られる効果の部分となります。(例) □□となるので、経済性の向上が図れます。

※(概)①、(概)②、(新)②の着色は、該当箇所をわかりやすくするため着色しています。上記の要領でまとめると、

例:本技術は、○○○○工法で、従来は、△△工法で対応していた。本技術の活用により、□□の必要がなくなるので、経済性の向上が図れます。

※重要※

アブストラクトは?
アブストラクトは、NETISで技術を検索した場合、新技術名称だけではその技術の概要が把握出来ない場合があります。そのような時に、簡単な技術概要を新技術名称の下に表示させるために、記述して頂いています。

【注意事項】

- ・「本技術は(概)①で、従来は(概)②で対応していた。本技術の活用により(新)②が期待出来る」と、例文をそのまま記入することの無いようにお願いします。
- ・「本技術の活用により、」以降ですが、文字数の制限(全角127文字以内)もありますので、技術の一番の効果に絞り、その効果の得られる理由も簡潔に記述して下さい。

概要(その2)

新技術情報入力システム(建設版) Ver7.004

メニュー 名称・分類等 概要 従来技術との比較 施工実績等 印刷プレビュー ヘルプ 保存

技術名称 ※タイトルが太字の項目は入力必須項目です。

NETISIに掲載する概要です。

概要 ①～④は入力支援コメントです。変更及び削除はしないでください。

文章 (半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。) 全角で1000文字まで

①何について何をする技術なのか?
・○○○○工法

②従来はどのような技術で対応していたのか?
・△△工法

③公共工事のどこに適用できるのか?
・□□工事

④その他

新技術の特徴を具体的かつ簡潔に記入して下さい。
また、一般的に使用されている表現で、一言で表して下さい。

例

- ・○○を用いた深層混合処理工法
- ・○○材料を○○する法面安定工法 など

新規性及び期待される効果の①に記述する内容です。

新規性及び期待される効果の②に記述する内容です。

悪い例 ・軽量盛土と再生木材による擁壁工法で、工期短縮・環境負荷軽減・コスト削減に寄与する事が出来る画期的なものである。

このような主観的な表現は、概要の説明には不用です。

なお、技術内容の具体的な補足説明が必要な場合などについては、③まで書き終えてから、④その他(追記・詳細)等で入力コメントを記入し、文字数の許す範囲で記載して下さい。

従来技術を具体的かつ簡潔に記入して下さい。
ここで記入する従来技術は、これ以降「従来技術名」として同じ記入として下さい。なお、既存のNETIS登録技術から選定できません。

記入のポイント

- ・過去に自社で開発されたものと比較していないか。
- ・工法・機械については原則として「土木工事標準積算基準」に示されているものから選択しているか。
- ・材料・製品・システムについては 一般的に使用されているものから選定して下さい。

新技術を使用する具体的な工事等を箇条書きで記入して下さい。

例

- ・道路工事
- ・車線拡幅工事
- ・地滑り対策工事

なお、ここで記入したものは、様式3「使用可能な工事の種類」に記載して下さい。

補足説明が必要な場合などは、④その他(追記・詳細)等で入力コメントを作成し、記述して下さい。

例えば、

- ・新技術のタイプ(機種)・規格(サイズ)別に使い分けがあればその説明
- ・新技術の仕組みや構成について、一般の閲覧者でも分かるような説明
- ・表も挿入できます。表(20列×20行まで)が入力可能
- ・概要全体で、文章(全角で1000文字)が入力可能

概要(その3)

新技術情報入力システム(建設版) Ver 7.004

メニュー 名称・分類等 概要 従来技術との比較 施工実績等 印刷プレビュー ヘルプ 保存

技術名称 一般
※タイトルが赤字の項目は入力必須項目です。

検索結果に表示する技術の概要です。全角127文字以内で入力してください。

技術概要(アブストラクト) (半角約) 及び 連続するスペースは入力できません。)

NETISSに掲載する概要です。

概要 ①~④は入力支援コメントです。変更及び削除はしないでください。
文章 (半角約) 及び 連続するスペースは入力できません。 全角で 1000文字まで

①何について何をする技術なのか?
②従来どのような技術で対応していたのか?
③公共工事のどこに適用できるのか?

写真 選択 クリア 写真タイトル

ファイル名

表タイトル

見出し 列数 0 行数 0

	A	B	C	E	F	C
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						

新規性及び期待される効果 ①・②は入力支援コメントです。変更及び削除はしないでください。
文章 (半角約) 及び 連続するスペースは入力できません。 全角で 1000文字まで

①どこに新規性があるのか(従来技術と比較して何を改善したのか)?
②期待される効果は(新技術活用メリット)?

写真 選択 クリア 写真タイトル

ファイル名

表タイトル

見出し 列数 0 行数 0

	A	B	C	D	E	F	C
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							

ファイルを開く

ファイルの場所(D:) デスクトップ

最近使ったファイル

- マイドキュメント
- マイコンピュータ
- マイネットワーク

デスクトップ

マイドキュメント

マイコンピュータ

マイネットワーク

ファイル名(N):

ファイルの種類(T): イメージファイル

開く(O) キャンセル

概要(写真)

技術概要が確認できる写真等を添付して下さい。選択ボタンを押すと下記のような画面が出て画像ファイルを選択できます。

下記、注意事項1~5を参照して下さい。

概要(写真タイトル)

この欄に写真タイトルを必ず記入して下さい(全角では25文字以内)。

作表

作表が出来ます。途中での行や列の挿入はできません(20列×20行まで)。

【注意事項】

既に記載されている項目に対し、改行してから文章を書き始めること。データの再読み込みで①②③等の項目が消えてしまった場合は、これらの項目をそのまま記述してから、行を変えて必要事項を記入して下さい。※概要、新規性及び期待される効果欄

写真について

- 1 写真や図などは、JPEG あるいは GIF 形式の画像ファイルを使用して下さい。
- 2 画像ファイルの大きさは185Kバイト以内にして下さい。
- 3 画像の縦横は最大600pixel以内にして下さい。 * 縦A4サイズで出力できます。
- 4 図面を利用する場合は、文字や数字がはっきり分かるものを使用して下さい。
- 5 必ず写真タイトルを入れて下さい。(全角では25文字以内)

新技術情報入力システム(建設版) Ver7.804

メニュー 名称・分類等 概要 従来技術との比較 施工実績等 印刷プレビュー ヘルプ 保存

技術名称 ※タイトルが太字の項目は入力必須項目です。

新規性及び期待される効果 ①・②は入力支援コメントです。変更及び削除しないでください。
 文章 (半角カナ及び連続するスペースは入力できません。) 全角で1000文字まで

①どこに新規性があるのか?(従来技術と比較して何を改善したのか?)

例

- 盛土材を××から〇〇に変えた。
- 改良機先端コリブを取り付けた。
- 型枠材をラワン合板(南洋材)から建設廃材を利用した再生木材からなる合板に変えた。

②期待される効果は?(新技術活用のメリットは?)

例

- 〇〇に変えたことにより、地盤改良の必要がなくなるので、経済性の向上が図れます。
- コリブを取り付けたことにより、直進性が向上し、品質の向上が図れます。
- 再生木材からなる合板に変えたことにより、環境負荷を低減でき、地球環境への影響抑制が図れます。

③その他

上記①で示すように、「××から〇〇に変えた。」等、従来技術から新技術への変更点を箇条書きで簡潔に記入して下さい。赤字部分が**新規性**になります。
 ここでは、**新規性のみ**を記入しますので、「…向上する。」「…できる。」のような効果の表現は、記入しないで下さい。
 なお、このような表現が出来ない場合は、新技術の新規性をそのまま記入して下さい。

上記②で示すように、①どこに新規性があるのか?の1文目と②期待される効果?の1文目が対になるように記入して下さい。

(1)文頭は①の**新規性の部分**「**〇〇に変えたことにより、…**」から記入して下さい。
 (2)その次に、なぜ効果が得られるのか理由を簡潔に**「地盤改良の必要がなくなるため**」を記入します。
 (3)最後に、**新規性**により得られる**効果**「**経済性の向上が図れます。**」を記入します。

記入例:

例

・〇〇に変えたことにより、**地盤改良の必要がなくなるので、経済性の向上が図れます。**

(1)文頭 (2)理由 (3)効果

ここから、**アブストラクトの新規性②の部分**

ここで**〇〇の向上等の効果**は、様式3で記載される**実験等により実証・確認された結果**として下さい。

なお、①と②が対応出来ない場合や従来技術と新技術の変更点が明確に出来ない場合は、新技術の効果をそのまま記入して下さい。

下記の様に追記したい内容があれば、新規性に関する事項で②までを書き終えてから、③その他(追記、詳細)等の入力コメントを作成して、そこに文字数の許す範囲で記入して下さい。

例えば、

- ・開発、コンセプトに至った経緯
- ・メリットの詳細、説明の必要がある着眼点
- ・比較した従来技術以外で効果があると確認されている内容
- ・表も挿入できます。表(20列×20行まで)が入力可能
- ・新規性及び期待される効果全体で、文章(全角で1000文字)が入力可能

概要(その5)

適用条件

施工、使用上の制約を記述して下さい。

①自然条件

自然条件に関する制約について記入して下さい。

(気温や気象等)

②現場条件

作業スペースや支障物等の制約について記入して下さい。

施工時もしくは設置後(作業スペース

〇〇㎡、機械の大きさ

〇〇m×〇〇m、施工場所等)

③技術提供可能地域(※)を参照して記入して下さい、

④関係法令等

法令上厳守しなければならない条件を記入して下さい。

* 発行年・発行元も記述して下さい。

留意事項

申請する新技術を施工あるいは使用するにあたって、留意する内容を記述して下さい。

①設計時

設計条件として必要な事項を記入して下さい。

②施工時

施工条件として必要な事項を記入して下さい。

③維持管理等

維持管理条件として必要な事項を記入して下さい。

④その他

現時点では確認が不十分な事項及び条件によっては不確実性がある事項を記入して下さい。

下記、留意事項補足説明を確認して記入して下さい。

適用範囲

技術として成立する為に最低限必要な基準や管理値・規格値及びその引用元を記述して下さい。

①適用可能な範囲

施工量・規模・地域等を記入して下さい。

②特に効果の高い適用範囲

①の中で特にメリットの高い条件を具体的に記入して下さい。

技術のアピールポイント(従来技術との比較:活用の効果欄)と整合するように記入して下さい。

③適用できない範囲

適用できない理由を明確に記入して下さい。

④適用にあたり、関係する基準およびその引用元

土木共通仕様書やその他基準類等を記入して下さい。

* 発行年・発行元、項目、頁数も記入して下さい。

(※)「技術提供可能地域」として、新技術を適用出来る地域について、具体的な都道府県名等と簡単な理由を記述して下さい。

例)

- ・技術提供地域については制限無し
- ・プラント設置地区に限る(山梨県、長野県、群馬県(平成〇〇年〇月現在))
- ・関東地区限定(現在運搬可能地域)

★注)特に制限が無い場合は、「技術提供地域については制限無し」として下さい。

【留意事項補足説明】

留意事項の記入は重要であるため設計、施工、維持管理、その他において、留意する点や注意点を記述して下さい。

- ・申請者から見れば当たり前に見える内容でも、閲覧者になると「なるほど」となる内容もあります。
- ・出来ない事、無理な内容など当たり障りない表現でごまかしたりせず、はっきりと表記して下さい。

実際に活用される際の施工現場や適用箇所は、様々な条件下にあり、全てに対して完璧であるということは、あり得ないと思われ

ます。即ち、多かれ少なかれ、問題や使い勝手の悪さなど、実施工に係わる様々な現象が起こりえます。

そこで、その問題等を現場での工夫で解決したり、新たな課題として捉え運用面・機能面それぞれでの解決を図るために、開発者として思案されたことがあれば、まさにここで記入していただければ、これから活用を考えている方に、大いに役に立つと思われ

現場における問題のレアケース対応を怠らなかつた事が、技術としてノウハウとなります。

逆に、「施工・使い方が悪いから」とか、「製品の販売だけなので分からない」とかというような対応をしてきた場合、ノウハウとしての蓄積は無くなります。

実績による経験上、同じ現象が起こってしまう、その原因となる処置を予めさせないようにする「回避策」や、起こってしまった場合の対処方法である「対応策」等の記入もお願いします。

【注意事項】

- 1 入力支援コメント①②③④等の項目が消えてしまった場合は、その項目をそのまま記入してから、改行し必要事項を記入して下さい。
- 2 特に記載する内容がない場合は、「・特になし」を、入力支援コメントの次に改行して記入して下さい。

従来技術との比較

新技術情報入力システム(建設版) Ver7.004

メニュー 名称・分類等 概要 従来技術との比較 施工実績等

技術名称 ○○工法
※タイトルが太字の項目は入力必須項目です。

活用の効果

従来技術名 △△工法

比較の対象となる従来技術名を記入していただければ、以下の各項目を入力することはありません。
経済性及び工程は、「活用の効果の根拠」にて、新技術及び従来技術の内訳を記入して算出された変化値により自動で選択されます。

活用の効果の根拠

項目	評価	変化値	比較のポイント
経済性	<input checked="" type="radio"/> 向上 <input type="radio"/> 同程度 <input type="radio"/> 低下	73.21 %	地盤改良の必要がなくなるため
工程	<input checked="" type="radio"/> 短縮 <input type="radio"/> 同程度 <input type="radio"/> 増加	50 %	養生の工程がなくなるため
品質	<input checked="" type="radio"/> 向上 <input type="radio"/> 同程度 <input type="radio"/> 低下		直進性が向上するため
安全性	<input checked="" type="radio"/> 向上 <input type="radio"/> 同程度 <input type="radio"/> 低下		
施工性	<input checked="" type="radio"/> 向上 <input type="radio"/> 同程度 <input type="radio"/> 低下		
周辺環境への影響	<input checked="" type="radio"/> 向上 <input type="radio"/> 同程度 <input type="radio"/> 低下		環境負荷が低減できるため
自由設定項目	<input type="radio"/> 向上 <input type="radio"/> 同程度 <input type="radio"/> 低下		
(全角20文字)			
自由設定項目	<input type="radio"/> 向上 <input type="radio"/> 同程度 <input type="radio"/> 低下		
(全角20文字)			

自由設定項目 (全角20文字)

自由設定項目 (全角20文字)

活用の効果
各項目について、従来技術と比較して該当するものを3段階(向上、同程度、低下)の内から必ず1つ選んで下さい。また、上記6項目以外で比較する場合は、自由設定項目に記入して下さい。
★注) 根拠となる資料も添付して下さい(様式3)。
※キーワード、開発目標と整合させて下さい。

活用の効果の根拠(経済性・工程)
「活用の効果の根拠」に必要な事項を記述して下さい。
「活用の効果の根拠」にて算出された値(経済性は金額・工程は日数)と変化値が自動的に表示されます。
なお、経済性については必ずイニシャルコストで計算して下さい。サイクルコストで向上(コストタイプ(A、D)に該当)する場合などは、比較のポイントに詳細を記述して下さい。

活用の効果
様式3,4に記載する評価は、ここでの評価と同じ評価となるようにして下さい。

比較のポイント
何が向上したのか、何が低下したのか等の何にあたる部分を具体的に(全角30文字以内)記述して下さい。
(例)
品質が向上した場合
↓
○○よりも強度が増加し、耐久性が向上したため
★注) 必ず活用の効果(評価)と記載内容が同じ内容となるようにして下さい。

経済性と工程については、「同程度」であっても比較のポイント(コメント)を必ず記述して下さい。また、品質・安全性・施工性・周辺環境への影響は、「同程度」の場合、比較のポイントは、特に記述しなくても構いません。

従来技術名
概要②に記載した従来技術名称を記入して下さい。

活用の効果
各項目について、従来技術と比較して該当するものを3段階(向上、同程度、低下)の内から必ず1つ選んで下さい。また、上記6項目以外で比較する場合は、自由設定項目に記入して下さい。
★注) 根拠となる資料も添付して下さい(様式3)。
※キーワード、開発目標と整合させて下さい。

活用の効果の根拠(経済性・工程)

「活用の効果の根拠」に必要な事項を記述して下さい。

「活用の効果の根拠」にて算出された値(経済性は金額・工程は日数)と変化値が自動的に表示されます。

なお、経済性については必ずイニシャルコストで計算して下さい。サイクルコストで向上(コストタイプ(A、D)に該当)する場合などは、比較のポイントに詳細を記述して下さい。

従来技術との比較 (2)

新技術情報入力システム(建設版) Ver7.804

メニュー 名称・分類等 概要 従来技術との比較 施工実績等 印刷プレビュー ヘルプ 保存

技術名称
 ※タイトルが太字の項目は入力必須項目です。

その他、技術のアピールポイント等 (全角127文字)
 [従来は〇〇という課題があったが、新技術では△△により××となり□□ができる。]

新技術のコストタイプ
 コストタイプの選択

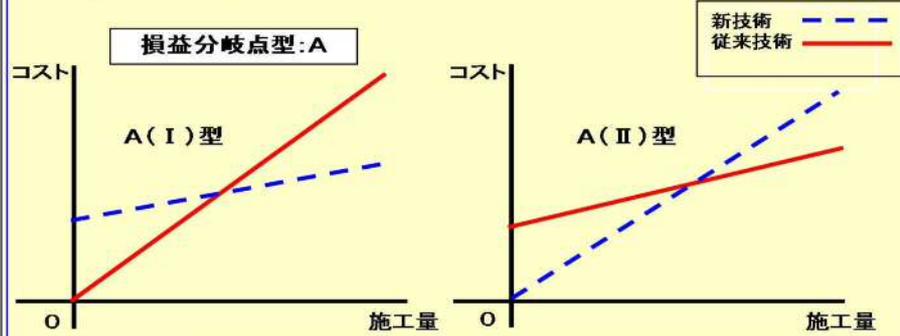
(半角英数) 及び 連続するスペースは入力できません。 全角で 1000文字まで

コストタイプ
 「コストタイプの選択」をクリックして「新技術のコストタイプ」の画面で選択する。
 *コストタイプについては、下段を参照して下さい。

技術のアピールポイント
 従来技術ではどのような課題があり申請技術はどのように解決され、どのような効果が得られるのかを簡潔に記入して下さい。
 例:従来は〇〇という課題があったが、新技術では△△により××となり□□ができる。

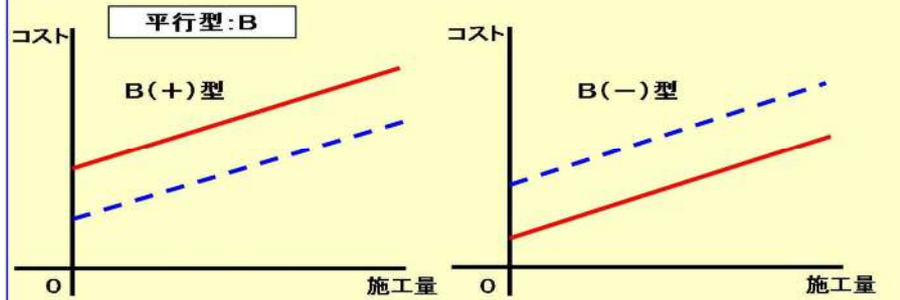
印刷について
 ・印刷後の様式では、概要の後に表示印刷されます。**記入箇所と違いますのでご注意ください。**

コストタイプ別グラフ

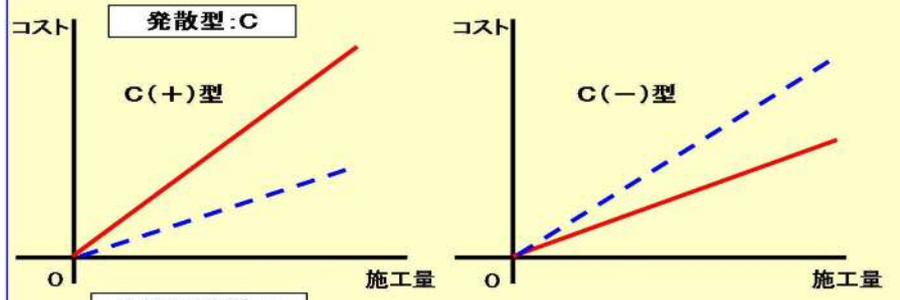


	100m ²	500m ²	1000m ²
新技術	500,000円	2,000,000円	3,800,000円
従来技術	400,000円	2,000,000円	4,000,000円

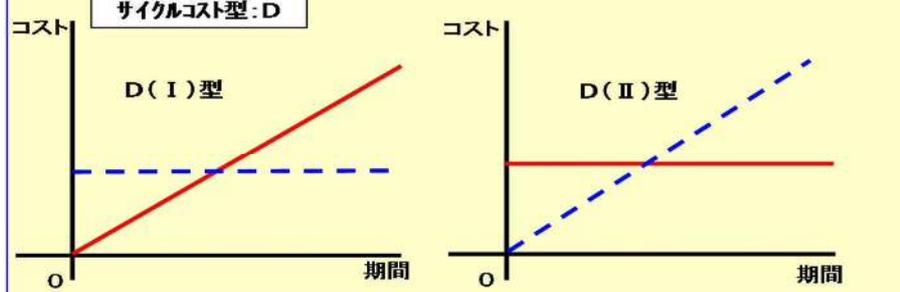
プラント設置などの初期投資に費用がかかるが、施工量が増せば、単位あたりの単価が安くなるパターン
 * 残土処理技術など



導入の時点から単価差があり、施工量にかかわらず、その差に変化がないパターン
 * 施工機械の違いによる技術など



導入時の単価差の有無に関わらず、施工量に比例して単価差が増すパターン
 * 材料や製品を含む技術など



基本的にはAタイプと同様であるが初期投資コストと経年との関係でサイクルコストとしての特性を表すパターン
 * 維持管理が関係する技術(除草、塗装、ポンプ)など

* D(I、II)型については、「1年、3年、5年、10年」とサイクルコスト比を記述する。

	1年	3年	5年	10年
新技術				
従来技術				

従来技術との比較(3)

新技術情報入力システム(建設版) Ver7.804

メニュー 名称・分類等 概要 従来技術との比較 施工実績等 印刷プレビュー ヘルプ 保存

技術名称 ※タイトルが太字の項目は入力必須項目です。

施工単価

文章 (半角放り及び連続するスペースは入力できません。) 全角で1000文字まで

施工条件

【共通】

- 橋梁下部工の施工を東京都で昼間施工した場合
- 施工面積A=100m²
- 工事規制、仮設足場は含まない

【新技術】

- 高強度ポリエチレン繊維ネット○○で施工

【従来技術】

- シートで施工

積算条件

【共通】

- 労務費は平成29年度公共工事設計労務単価(東京都)から引用
- 産業廃棄物処理費は含まない

【新技術】※記述は従来技術に合わせて下さい。

- 施工歩掛は自社歩掛
- 材料費…自社単価

【従来技術】

- 施工歩掛は国土交通省土木工事積算基準(平成20年度版)から引用
- 材料費…○○2018年3月号から引用
- はつり工単価…○○2018年3月から引用

登録技術の費用内訳書を、以下の表に記入してください。初期記入内容は入力参考例です。内容を確認後、表に

表タイトル 参考例

	A	B	C	D	E
1 工程		事例			
2 材料費		○○	～	○○	
3 施工費		○○	～	○○	
4 合計		○○	～	○○	
5					
6					
7					

○なし ○標準歩掛 ○暫定歩掛 ○協会歩掛 ○自社歩掛

施工単価

- ・新技術の内訳と従来技術の内訳で記載した金額(単価及び損料)等が分かるように記入して下さい。
- ・内訳で記載された金額は、どのような条件下で算出されたのか、施工条件・積算条件を必ず記載して下さい。ここで記載された、施工条件・積算条件は、「様式3-経済性-申請技術積算条件と従来技術積算条件」でも同様に記載します。

記入のポイント

- ・材料、製品は、タイプや規格により単価が変わる場合、タイプ・規格別に単価がわかるよう単価表を記載して下さい。
- ・適用年次、地域等による単価の変動があるものは、積算条件として記載して下さい。

例)平成30年3月現在

- ・コストタイプ、A・Dを選択された場合、損益分岐点や初期投資コストと経年との関係について、記載して下さい。

例) 5000m³を超えると経済性が向上します。

例) 新技術は、10年間維持管理不要。(従来は、毎年維持管理が必要)

- ・上記文章を補足する一覧表(Excel)が作成できます。
- ・**積算・工程の算出根拠を、添付資料もしくは参考資料として提出して下さい。**
- ・文章(全角で1000文字)、表(20列×20行まで)が入力可能

歩掛表

※該当するものを選んで下さい。

- ・「なし」とは、そもそも歩掛がない技術
- ・「標準歩掛」とは、施工実態調査を基に、標準的な施工が行われた場合の労務、材料、機械等の規格や所要量各々の工種毎に設定したもの
- ・「暫定歩掛」とは、公共工事の発注者の負担を軽減して新技術の採用促進を図るため、既に活用実績が多い新技術や活用ニーズの高い新技術について、提供している歩掛
- ・「協会歩掛」、「自社歩掛」は、協会や自社にて歩掛を把握している技術で、その歩掛が分かる資料を別途添付して下さい。

従来技術との比較 (4)

新技術情報入力システム(建設版) Ver7.804

メニュー 名称・分類等 概要 従来技術との比較 施工実績等 印刷プレビュー ヘルプ 保存

技術名称 ※タイトルが 太字の項目は入力必須項目です。

施工方法

文章 (半角放り及び連続するスペースは入力できません。) 全角で 1000文字まで

①〇〇工
②△△△工
③…

のように、工程を順序よく記述して頂くと見た人は分かり易いと思います。
他に、写真やフロー図を貼り付けたりするとより分かり易くなります。フロー図の場合、従来技術のフロー図と対比させて表現するとさらにその違いがよく分かると思います。
また、実際の工程だけでなく、前後に必要な準備やフォロー等の記述もあれば、より分かり易く、かつ技術として成熟していることがよく分かります。

例

①準備工
××を均一に…して…。

②仮設工
鋼矢板により…する。

③〇〇工
…を設置し…する。

④…
⑤…

新技術	従来技術
①準備工	準備工
②仮設工	仮設工
③〇〇工	〇〇工
④〇〇工	〇〇工
⑤竣工	竣工

※施工方法の記述の番号・題目は、施工フロー・施工写真にも同じ番号・題目を記載して下さい。(青文字の部分)

①準備工	②準備工	③〇〇工	④〇〇工	⑤竣工
写真①	写真②	写真③	写真④	写真⑤

写真 選択 クリア 写真タイトル

ファイル名

表タイトル

見出し 列数 0 行数 0

A	B	C	D	F	C

今後の課題とその対応計画 ①・②は入力支援コメントです。変更及び削除しないでください。

文章 (半角放り及び連続するスペースは入力できません。) 全角で 1000文字まで

①今後の課題
②対応計画

写真

施工の手順が分かるようにフロー図・写真・図面を記載し分かりやすく表現して下さい。

写真タイトル

この欄に写真タイトルを必ず記入して下さい。(全角では25文字以内)

今後の課題とその対応計画

新技術について、今後取り組んでいく技術的事項及びその方向性について記入して下さい。

※既に記載されている下記の項目に対し、改行してから文章を書き始めること。データの再読み込みで①②の項目が消えてしまった場合は、これらの項目をそのまま記述してから、行を変えて必要事項を記入して下さい。

①今後の課題 ②対応計画 ★注) 課題に対して計画が対応するように記述して下さい。

施工実績等(その1)

新技術情報入力システム(建設版) Ver7.004

メニュー 名称・分類等 概要 従来技術との比較 施工実績等 印刷プレビュー ヘルプ 保存

技術名称 ○○工法
※タイトルが太字の項目は入力必須項目です。

施工実績

実績件数(国土交通省(旧建設省、旧運輸省含む))
国土交通省 1 件

現在入力している新技術に関するもの以外は入力しないで下さい

実績追加 実績編集 実績削除

工事名	事業種類	地方整備
○○交差点改良工事	一般工事	関東地方

施工実績の内訳(国土交通省)

工事名(全角入力)
○○交差点改良工事

事業種類(選択入力)
一般工事

整備局名(選択入力)
関東地方整備局

事務所名(選択入力)
東京国道事務所

CORINS登録番号(半角入力)
12345678-0123456789

施工期間
開始 2017/10/30 終了 2018/03/20 必ず日付まで入力してください (半角 例: 1997/04/01)

前レコード 次レコード レコード: 1 確定 キャンセル

実績件数(国土交通省(旧建設省、旧運輸省含む)以外)
その他公共機関 2 件 (半角入力)
民間 1 件 (半角入力)

現在入力している新技術に関するもの以外は入力しないで下さい

実績追加 実績編集 実績削除

工事名	発注者(種別)	種別
○○橋塗装工事	公共機関	○○
○○維持工事	公共機関	○○
○○ビル改修工事	民間	○○

施工実績の内容(民間)

工事名(全角入力)
○○ビル改修工事

発注者(種別)(選択入力)
民間

発注者(事務所名等)(全角入力)
○○建設株式会社

CORINS登録番号(半角入力)

施工期間
開始 2017/12/01 終了 2018/3/31 必ず日付まで入力してください (半角 例: 1997/04/01)

確定 キャンセル

新技術の実績件数を記入して下さい。なお、実績とは、独自の実証実験であっても、想定される現場条件と同等条件下である場合、所定の出来形・品質が確認されることをもって工事実績と同等であるとします。また、実績件数がない場合は0件と記入して下さい。

発注者が国土交通省(沖縄総合事務局含む)、その他公共機関、民間等であるか否かで判断します。

記入のポイント

- ①国土交通省
- ②その他公共機関(地方自治体、NEXCO、公団、公社に加え、鉄道会社、電力会社、ガス会社、NTT、第3セクター)
- ③民間

各①②③の施工実績件数と施工実績の詳細を記述します。

- ・施工開始日が実験等実施状況及び開発年以降であること。(実験等実施状況により、申請技術の成立性が確認され公共工事等での実用が可能と判断された年が開発年となり、開発年以降の実績が、施工実績となります。)

実験等実施 → 開発年 → 施工実績

例 実験等実施(2017年10月20日) → 開発(2017年) → 施工実績(2017年10月21日以降に施工開始となるもの。)

- ・工事が完成していること。
- ・施工期間については、**元請業者の契約工期**を記入して下さい。
- ・件数が多く20件を越える場合は、施工終了時期の最新のものより代表的なものを20件記入するようにして下さい。
- ・CORINS登録番号は、できる限り確認し記入して下さい。(特に、国土交通省の実績の場合)

建設業許可番号 8桁 CORINS番号 4桁-5桁 例 12345678-1234-12345

施工実績等(その2)

特許・実用新案

「特許・実用新案」の有無、出願状況について、新技術情報の提出時点で選択し記入して下さい。「特許」が複数ある場合は、最大5件まで記載できます。

特許・実用新案

補足説明などが必要な場合は、ここに記入して下さい。

第三者評価・表彰式等

国土交通省(旧:建設省)が実施している建設技術評価制度、民間開発技術審査・証明事業において評価・証明された技術について、該当する個所に記入して下さい。

建設技術評価

昭和53年建設省告示第976号に基づいて、国土交通省(旧:建設省)が開発課題を提示し、それに対して民間が開発する技術を建設技術評価委員会の結果を受けて国土交通大臣が評価を与えた技術を指します。

建設技術評価(追加)

民間開発技術審査・証明事業において評価・証明された技術について証明項目、試験・調査内容、結果を記入して下さい。**追加ボタン**を押すと記入できます。

【同意書】

※申請技術に知的財産権等が設定されていて、申請者と異なる場合は、同意書(様式自由)を提出して下さい。

特許・実用新案

特許番号
・出願番号、公開番号、特許番号を記入して下さい。

例) 特願平〇〇-〇〇〇〇〇〇
例) 特許第〇〇〇〇〇〇〇号

実施権
・専用実施権、もしくは通常実施権のどちらかを選択して下さい。

特許権者
・通常実施権の主な保有者又は実施権許諾の主な要件
例) A建設

実施権者
・実施許諾の保有者
例) B建設、他社へ許諾しない、不特定等

特許料等
・実施許諾に伴う費用等
例) 他社による実施の場合は、通常の施工費と別に施行指導料 ¥〇〇/式、特許使用料 ¥□□/㎡が必要

実施形態
・施工に伴う注意点等
例) 元請にて自ら施工、元請もしくは下請にて自ら施工、他社による施工可、他社へ幅広く販売等

問合せ先
・電話番号
例) 〇〇株式会社

※新技術入力システムの不具合について※
特許番号又は出願番号を記入し、特許「有り」又は「出願中」を選択しても、出力画面では、特許の欄の「有り」又は「出願中」にチェックされず、「無し」にチェックされてしまいます。これは、システムの不具合になりますので、そのままです。今後、システムの改善を行う予定になっております。

特許・実用新案		特許の有無			
種類		有り	出願中	出願予定	*無し
特許					
	実施権				
	特許権者				
	実施権者				
	特許料等				
	実施形態				
	問合せ先				
	実施権				
	特許権者				
	実施権者				

3. 技術詳細説明資料(様式3)の作成要領(A3横で印刷して下さい)

技術詳細説明資料		技術詳細説明資料	
技術の名称	〇〇工法	比較対象とする従来技術	技術名称
開発会社名	〇〇株式会社		△△工法
NETIS登録番号	□登録済み・登録番号[]		選定理由
申請先の地方整備局	関東地方整備局 関東技術事務所		
分類	{[レベル1:], [レベル2:], [レベル3:], [レベル4:]}		
使用可能な工事の種類	□〇工事	その他	

様式2で記述した新技术名称と同じ名称を記入して下さい。

様式2の開発会社の項目に記述した会社名を記入して下さい。

「未登録」となるように「□」に修正して下さい。

「関東地方整備局 関東技術事務所」を記入して下さい。

様式2の分類1で選択したレベルを記入して下さい。

様式2の概要 ③公共工事のどこに適用できるのかと同じ内容を記入して下さい。

比較対象とする従来技術

技術名称

△△工法

様式2で概要②で記述した技術名称と同じ名称を記入して下さい。

一般的に採用実績が多い工法のため、従来技術として×××工法を採用した

従来技術の選定理由を記入して下さい。
※新技术に関しての内容等は、特に必要ありません。

大	中	小	申請者記入欄				備考		
			従来技術のコスト	申請技術のコスト	従来技術との比較<結果>	従来技術積算条件		申請技術積算条件	申請技術の積算方法
経済性	イニシャルコスト	単位数量当り	60,000円/1kg	50,000円/1kg	16.67%向上	施工条件 【共通】 ・建設下部工の施工を東京都で昼間施工した場合 ・施工面積A=100m ² ・工事規制、仮設足場は含まない 【従来技術】 ・〇シートで施工積算条件 【新技术】 ・高強度ポリエチレン繊維ネット〇〇で施工積算条件 【共通】 ・労務費は平成29年度公共工事設計労務単価(東京都)から引用 ・産業廃棄物処理費は含まない 【従来技術】 ・労務費は平成29年度公共工事設計労務単価(東京都)から引用 ・産業廃棄物処理費は含まない 【新技术】※記述は従来技術に合わせて下さい ・労務費は平成29年度公共工事設計労務単価(東京都)から引用 ・施工歩掛は自社歩掛 ・材料費・・・〇〇2018年3月等から引用 ・はつり工単価・・・〇〇2018年3月等から引用	施工条件 【共通】 ・建設下部工の施工を東京都で昼間施工した場合 ・施工面積A=100m ² ・工事規制、仮設足場は含まない 【従来技術】 ・〇シートで施工積算条件 【新技术】 ・高強度ポリエチレン繊維ネット〇〇で施工積算条件 【共通】 ・労務費は平成29年度公共工事設計労務単価(東京都)から引用 ・産業廃棄物処理費は含まない 【従来技術】 ・労務費は平成29年度公共工事設計労務単価(東京都)から引用 ・産業廃棄物処理費は含まない 【新技术】※記述は従来技術に合わせて下さい ・労務費は平成29年度公共工事設計労務単価(東京都)から引用 ・施工歩掛は自社歩掛 ・材料費・・・自社単価	参考資料1:〇〇〇工法工事単価表(概算) 参考資料2:〇〇〇工法工事単価表(概算)	『国土交通省 土木積算基準』(平成〇〇年度版)P〇～△△ 参考資料2:〇〇〇工法工事単価表(概算)
ランニングコスト									
その他									
トータルコスト	合計		60,000円/1kg	50,000円/1kg	16.67%向上				

小項目には、算出に当り計上した項目を記述して下さい。

従来技術のコストには、様式2活用の効果で記載の「従来技術の金額」と「基準とする数量・単位」を記述して下さい。

申請技術のコストには、様式2活用の効果で記載の「新技术の金額」と「基準とする数量・単位」を記述して下さい。

従来技術との比較<結果>には、様式2活用の効果で記載の「変化値」と「効果」を記述して下さい。

従来技術積算条件には、様式2施工単価で記載の「施工条件」と「積算条件」の【共通項目と申請技術の項目】を記述して下さい。

申請技術積算条件には、様式2施工単価で記載の「施工条件」と「積算条件」の【共通項目と申請技術の項目】を記述して下さい。

申請技術の積算方法には、様式2施工単価でチェックした「歩掛」を記入して下さい。一般的に「自社歩掛」となります。

添付資料欄には、様式2添付資料として記入した「番号」と「添付資料名」を記入して下さい。

従来技術引用元には、従来技術の積算内容もしくは従来技術の積算資料名を「番号」と「添付資料名」と記入して下さい。

ランニングコストは、様式2のコストタイプにて、「A」もしくは「D」を選択された場合、記述が必要となります。Aタイプの場合は、初期費用がイニシャルコストで記載されるので、施工量によりコストが増減することがわかるように記載して下さい。Dタイプの場合は、初期費用がイニシャルコストで記載され、各年毎に維持管理費用が算出されるのでその費用がわかるように記載して下さい。なお、記載方法は「イニシャルコスト」と同じ記載方法となります。

その他の項目には、イニシャルコストやランニングコストに計上していない費用があれば、記載して下さい。

「小項目」裏証確認された内容の項目名を記述して下さい。

①申請技術が満たさなければならぬ基準を抜粋し記述して下さい。

②現行基準と申請技術の比較結果を、適合・不適合で記述して下さい。基本的に「適合」となります。

①で記された基準を、申請技術が満たしているか裏証により確認された内容をできるだけ定量的に記述して下さい。

申請技術と従来技術の比較結果を、向上・同等・低下で記述し、その理由も記述して下さい。

申請書類に記された数値が、どの様な条件下において得られた物を記述して下さい。

③申請技術について裏証により確認した数値等」の裏証方法と確認した機関名を記述して下さい。(公共試験機関や自社等)

④で記された内容を確認できる資料を「番号」と「添付資料名」で記入して下さい。

①現行基準値等」で記された基準が、どの書物・文献から引用されたものなのか分かるように名称・発行年・ページを記述して下さい。

大	中	小	申請者記入欄								備考	
			①現行基準値等	②現行基準との比較<結果>	③申請技術について裏証により確認した数値等	④従来技術との比較<結果>	⑤申請技術の数値採取条件	⑥裏証方法・機関	⑦添付資料名・番号 (機関データ等)	⑧基準値等の引用もと		
安全性	構造											
	施工段階											
耐久性	物性											
	形状											
	耐力											
品質・出来形	材料											
	施工											
	完成物											
施工性	含塵化											
	現場条件											
	運用範囲											
	直感条件											
	施工管理											

作成についての注意

①大項目・中項目の変更、削除はしないで下さい。

②印刷設定はA3横にして下さい。

③エクセルの拡張子は「xls」で作成して下さい。

★様式3を作成する際は、申請マニュアルP.19～P21を参照して下さい。

3. 技術詳細説明資料(様式3)の作成要領(A3横で印刷して下さい)

評価項目		申請者記入欄										
大	中	①現行基準値等	②現行基準との比較<結果>	③申請技術について実証により確認した数値等	④従来技術との比較<結果>	⑤申請技術の数値採取条件	⑥実証方法・機関	⑦添付資料名・番号(規模データ等)	⑧基準値等の引用もと			
安全性	構造	エンジンストップ機能	スロットルから手を離した際、自動的にエンジンが停止すること	適合	スロットルから手を離した際、自動的にエンジンが停止することを確認した	従来も自動的にエンジンがストップしたため同等	〇〇の試験施工	試験施工により自社にて確認	添付資料1:スロットル停止試験結果 P2	自社基準	安全「構造」には、新技術の構造の安全性について確認した内容を記述して下さい。	
	施工段階	作業員に対する事故	作業員に対する事故がないこと	適合	作業員に対する事故がないことを確認した	従来も事故はないため同等	〇〇の施工実績	施工実績により自社にて確認	添付資料2:施工実績〇〇	自社基準	安全「施工段階」には、新技術の施工時の安全性について確認した内容を記述して下さい。	
耐久性	物性	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	耐久性には、新技術の「長期耐久性」について確認した内容を記述して下さい。
	形状	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	能力	防水性能	施工後〇年以上防水効果があること	適合	施工後〇年防水効果があることを確認した	従来は〇年なので向上	〇個の供試体	〇〇試験を〇〇にて実施	添付資料3:防水試験結果P8	自社基準		
品質・出来形	材料	材料の規格	JIS〇〇〇	適合	使用材料はJIS〇〇〇であることを確認している。	従来も使用材料はJIS〇〇〇なので同等	××試験(財)〇〇試験センター	-	添付資料4:試験結果一覧 P.〇	『土木工事共通仕様書 P.△△』平成〇〇年版 P.△△~◇◇	品質・出来形には、新技術の「品質及び出来形」について確認した内容を記述して下さい。	
	施工	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
施工性	現成物	標準的な基準や自社基準等も無く①が記入できず「-」となった場合は、②⑧も「-」となります。	〇〇の構造仕上げ	厚 ±〇〇mm	適合	厚 ±〇〇mmの範囲内であることを確認した。	従来より数値のばらつきが無いので向上	〇件の施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料5:〇〇工法出来形 P.△△~◇◇	『土木工事共通仕様書 P.〇〇~〇△△』平成〇〇年版 P.△△~◇◇	
	倉庫化	工程	-	-	2日/100㎡	3日/100㎡33.3%短縮	〇件の施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料6:〇〇工法施工要領	-	様式2活用の効果、工程で記載した内容を記述して下さい。	
	現場条件	作業スペース	〇m×〇mの作業スペースが必要。	適合	〇m×〇mの作業スペースがあれば施工可能であることを確認している。	従来も〇m×〇mの作業スペースが必要なので同等	試験施工	〇〇工法試験施工社内検証	添付資料4:試験結果一覧 P.〇	自社基準	様式2適用条件②現場条件で記載した内容を記述して下さい。	
	適用範囲	適用範囲	△△~□□の範囲内であること。	適合	△△~□□の範囲内で施工可能であることを確認した。	従来より適用範囲が広がったので向上	試験施工	〇〇工法試験施工社内検証	添付資料4:試験結果一覧 P.〇	自社基準	様式2適用範囲①適用可能な範囲で記載した内容を記述して下さい。	
	自然条件	気温	施工時の周囲温度が0℃以上、40℃以下であること。	適合	施工時の周囲温度が0℃以上、40℃以下であることを確認している。	従来も気温に関する制約があるので同等	〇件の施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料6:〇〇工法施工要領	自社基準	様式2適用条件①自然条件で記載した内容を記述して下さい。	
	施工管理	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	④は、様式2活用の効果と整合させて下さい。また、効果を「向上(短縮)、同等、低下(増加)」から記入して下さい。
環境	社会環境	資源	-	-	〇〇をリサイクル施工できることを確認している。	〇〇をリサイクルしているので向上	◇◇試験	◇◇試験(財)〇〇試験センター	添付資料4:試験結果一覧 P.〇	-	①②が「-」であっても③を記入した場合、以降の④⑤⑥⑦は記入必須となります。	
	作業員環境	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
その他(自由設定)	その他(自由設定)※申請内容に追加した評価項目を設定して下さい。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	様式2「自由設定項目」で記載した内容で記述して下さい。	
その他	独自の基準等の有無	技術資料、設計基準等	有(自社基準)	有(自社基準)	有(自社基準)	有(自社基準)	有(自社基準)	有(自社基準)	有(自社基準)	有(自社基準)	積算方法や⑦、⑧で記入した現行基準以外は、独自基準となりますので、こゝへ記入して下さい。	



【技術詳細説明資料(様式3)の作成その1】

記入方法を下記に記載します。記入の際注意して下さい。

◆上段枠

1, 分類、使用可能な工事の種類

- ・分類は、**様式2の分類1**を記入して下さい。
- ・使用可能な工事の種類は、**概要②公共工事のどこに適用できるか**を記入して下さい。

2, 比較対象とする従来技術[工法の例、理由]

※工法に限らず、製品、材料、機械、システムに共通

- ・原則として『国土交通省 土木工事積算基準』に該当する**工法**を選択して下さい。
- ・最終的に**出来形(結果)が同一となる物**を選択して下さい。
- ・**同業他社、又は自社の技術(新技術)**を比較対象としないで下さい。
- ・**様式2, 4**で記載するものと**統一**して下さい。
- ・選定理由を必ず記入して下さい。

【例】「一般的に採用実績が多いため、従来技術は●●工法を選定した」

◆中段枠【評価項目:経済性(イニシャルコスト)】

3, 従来技術コスト及び申請技術のコスト

- ・**様式2の「活用の効果の根拠」項**と同一として下さい。
- ・単位数量を明確にした物を記述します。また、単位数量は、**出来る限り、丸めた数字**を使用して下さい。

【例】従来技術:55,000円/100㎡ 申請技術:48,000円/100㎡

4, 従来技術との比較(結果)

- ・**様式2の「活用の効果」項**と同一として下さい。

【例】12.7%向上

5, 従来技術積算条件及び申請技術積算条件

- ・**様式2の「施工単価」**で記された、**積算条件・施工条件**を記述して下さい。
(地質、機種、施工量、規模等積算上必要と思われる条件)

【例】従来技術:改良幅 □m 改良厚 ○○mm 施工延長 △△m
申請技術:改良幅 □m 改良厚 ○○mm 施工延長 △△m

6, 申請技術の積算方法

- ・積算額をどのように算出したかを記述して下さい。

【例】自社歩掛

7, 添付資料名・番号(根拠データ等)

- ・**「申請技術のコスト」**で記載された**金額**について確認できる資料として下さい。
- ・添付する資料の**右上に通し番号**をつけて、その番号に対応する**資料名と資料番号**を記述して下さい。
- ・添付資料名は、**様式2の「添付資料」**と同一として下さい。**添付資料は開示できる資料とします。**
なお、**開示できないものは参考資料として下さい。**

【例】【添付資料1】『国土交通省 土木積算基準』(平成○○年度版)P.○～△△

【添付資料2】『建設物価』(平成○○年○月号)P.△△△

【参考資料1】○○○工法工事価格表(積算)

8, 従来技術引用元

- ・**従来技術の積算**に際し、引用された**発行物名または、協会・自社資料等**が分かるよう**名称・発行年・号・頁**を記述して下さい。
- ・原則として『国土交通省 土木工事積算基準』、『建設物価』、『積算資料』より引用して下さい。
また場合によっては、**各協会等で発行する積算資料**も可です。

【例】『国土交通省 土木積算基準』(平成○○年度版)P.○～△△

『建設物価』(平成○○年○月号)P.△△△

◆中段枠【評価項目:経済性(ランニングコスト・その他)】

9, ランニングコスト・その他

- ・一般的な技術は、「-」を記入して下さい。**これらの項目に該当する場合には記入**して下さい。

【技術詳細説明資料(様式3)の作成その2】

◆下段枠【評価項目:安全性、耐久性、品質・出来形、施工性、環境等に共通】

①現行基準値等

・『土木工事共通仕様書』や、『道路橋示方書』等示方書、便覧、指針・同解説等より申請技術が満たさなければならない基準を抜粋し記述して下さい。

【例】△△強度 ◇N/mm²であること

なお、標準的な基準が整備されていない様な場合は、**開発時に協会や自社で掲げた規定値、目標**などを基準値、規格値とし記述しても構いません。

②現行基準との比較(結果)

・現行基準と申請技術の比較結果を、**適合・不適合**で記述して下さい。
基本的に①の基準に対して③が適合である内容で記入されるので、「**適合**」と記入されます。

③申請技術について実証により確認した数値等

・「①現行基準値等」で記された基準を、申請技術が満たしているか実証により確認された内容を**できるだけ定量的に記述**して下さい。

【例】△△強度 ◇N/mm²であることを確認した。

④従来技術との比較(結果)

・申請技術と従来技術の比較結果を、**向上・同等・低下**で記述し、その理由も記述して下さい。

【例】従来よりも△△強度が増加するので向上

⑤申請技術の数値採取条件

・申請書類に記された数値が、**どの様な条件下において得られた物**かを記述して下さい。

【例】○○mm×○○mmの試験体で△△強度を測定

【例】○件の実験

【例】○件の施工実績

⑥実証方法・機関

・「**③申請技術について実証により確認した数値等**」の実証方法と確認した機関名の両方を記述して下さい。(公共試験機関や自社等)

【例】△△試験 (財)○○試験センター

【例】○件の施工実績を自社で確認

【例】○件の実験を自社で確認

⑦添付資料名・番号(根拠データ等)

・「**③申請技術について実証により確認した数値等**」で記された内容を確認できる資料として下さい。
・添付する資料の右上に通し番号をつけて、その番号に対応する**資料名と資料番号**を記述して下さい。

・添付資料名は、様式2の「添付資料」と同一とします。**添付資料は開示できる資料とします。**

なお、**開示できないものは参考資料として下さい。**

【例】 【添付資料1】 ■■試験結果一覧 P.○○～△△

【参考資料1】 △△△△要覧 P.●●～▲▲

⑧基準等の引用と

・「**①現行基準値等**」で記された基準が、**どの書物・文献から引用されたものなのか**分かるように**名称・発行年・号・頁**を記述して下さい。

・『土木工事共通仕様書』や、『道路橋示方書』等示方書、便覧、指針・同解説等を指します。

【例】『土木工事共通仕様書 ○-○-○ □□』平成○○年板 P.△△～◇◇

【参考】申請技術の基準が、どの様な文献に掲載されているか判断出来ない場合は、「**土木施工管理必携 土木工学編**」(財)全国建設研修センター建設研修調査会発行により、該当工種を検索し、その項の「**参考文献**」に記載されている文献を参照する方法があります。

なお、①を協会や自社で設定した基準にした場合は、協会基準や自社基準などとしても構いません。

4. 比較表の作成要領

この様式に記載された事項は新技術活用評価会議及び国土交通省職員の参考資料として使用されます(外部への公表は行いません)

(注) 従来技術との比較に加え、既存のNETIS登録技術との比較も行ってください。また必要に応じて評価項目を追加してください。

比較表(記入例)

様式4

技術名：○○○工法

この列には様式1・2・3で記載した新技術と同一のものを記載して下さい。

この列には様式2・3で記載した従来技術と同一のものを記載して下さい。

この列にはNETISで検索できる登録技術を最低限網羅して記入して下さい。なお、NETIS非登録技術についても、記載しても構いません。

	新技術 ○○○工法	従来技術 ××××工法	既存のNETIS登録技術 ◇◆◇工法	既存のNETIS登録技術 △▲▽機工法	既存のNETIS登録技術 ∞∞工法
工法概要	○○を用いた△△をする □□工法である。				
概略図		従来技術の評価はすべて「-」として下さい。			
経済性	48,000円/100㎡ (12.7%向上)	55,000円/100㎡	△△△円/100㎡ (△△%向上)		
評価	◎	-	○		
工程・工期	0.5日/100㎡ (○○%短縮)	1日/100㎡	□□日/100㎡ (□□%短縮)		
評価	◎	-	○		
品質・出来型	JIS○○○を使用 厚 ±○○mm	JIS○○○を使用 厚 ±○○mm	JIS○○○を使用 厚 ±○○mm		
評価	△	-	△		
現場条件	○m×○mの施工ヤード があれば施工可能。	○m×○m以上の施工ヤード が必要である。	○m×○mの施工ヤード が必要である。		
評価	○	-	△		
設計条件	設計時に○○の確認が必要。	設計時に○○の確認が必要。	設計時に△△であるか確認が必要。		
評価	△	-	△		
安全性	△△がないこと。	△△がないこと。	△△がないこと。		
評価	△	-	△		
施工性	□□が省力化する	□□が省力化する	□□が省力化する		
評価	△	-	△		
環境	▽▽の削減が図れる	▽▽の削減が図れる	▽▽の削減が図れる		
評価	△	-	-		
その他 (自由設定)	-	-	-		
評価	-	-	-		
その他 (自由設定)	-	-	-		
評価	-	-	-		
NETIS番号	-	-	☆☆-☆☆☆☆☆		
備考	-	-	-		
総合評価	◎	-	○		

<比較表について>

- ・新技術の内容は、様式2、3で記載した内容を記入して下さい。
- ・従来技術の内容は、様式2、3で記載した内容を記入して下さい。
- ・既存のNETIS登録技術は、新技術・従来技術で記載された内容(同一の視点)について、NETIS情報で確認できることを記入して下さい。なお、評価項目に記述できない場合は、記入項目を「-」とし、評価も「-」を記入して下さい。

作成についての注意点

- ①項目の変更、削除はしないで下さい。
- ②ファイルサイズは500KB以下にして下さい。
- ③印刷設定は、A4横にして下さい。
- ④エクセルの拡張子は「xls」で作成して下さい。

★様式4を作成する際は、申請マニュアルP.23・24を参照して下さい。

【比較表(様式4)の作成1】

1, 技術名

・新技術……

様式1(登録申請書)、様式2(技術概要説明資料)、様式3(技術詳細説明資料)で記述したものと同一として下さい。

・従来技術……

様式2(技術概要説明資料)、様式3(技術詳細説明資料)で記述したものと同一として下さい。

・既存のNETIS登録技術……

新技術、従来技術と類似している技術をNETIS情報から検索し、最低限網羅して下さい。
(NETIS情報に掲載されていないものでも構いません。)

2, 工法概要

・新技術……様式2概要「アブストラクト」を記入して下さい。

・従来技術……「アブストラクト」程度の内容を記入して下さい。

・既存のNETIS登録技術……「NETIS情報のアブストラクト」を記入して下さい。

また、NETIS登録技術以外については、上記と同程度の内容を記入して下さい。

3, 概略図

・図面及びCG, 模式図、写真、フロー等を入れて下さい。

4, 経済性

・新技術と従来技術……

・様式2(技術概要説明資料)、様式3(技術詳細説明資料)で記述した金額と単位を記入して下さい。

※既存のNETIS登録技術は、NETIS情報で掲載されている単位数量当たりの金額を記入して下さい。

イニシャルコストのみ記載例

【例】新技術……(▲▲▲円/100㎡ △△%向上)

従来技術…(■●●円/100㎡)

既存のNETIS登録技術…(△△△円/100㎡ ○○%向上)

ランニングコストを含めた記載方法

【例】新技術……イニシャルコスト(▲▲▲円/100㎡ △△%低下)

ランニングコスト(▲▲▲円/100㎡ △△%向上)

トータルコスト(▲▲▲円/100㎡ △△%向上)

従来技術……イニシャルコスト(■●●円/100㎡)

ランニングコスト((■●●円/100㎡)

トータルコスト((■●●円/100㎡)

既存のNETIS登録技術・イニシャルコスト(△△△円/100㎡ ○○%向上)

ランニングコスト((■●●円/100㎡○○%低下)

トータルコスト((■●●円/100㎡○○%低下)

5, 工程・工期

・新技術と従来技術……

・様式2(技術概要説明資料)、様式3(技術詳細説明資料)で記述した日数と単位を記入して下さい。

※既存のNETIS登録技術は、NETIS情報で掲載されている単位数量当たりの工程を記入して下さい。

【例】新技術……(▲▲▲日/100㎡ △△%短縮)

従来技術…(■●●日/100㎡)

既存のNETIS登録技術…(△△△日/100㎡○○%増加)

6, 品質・出来型～環境

・様式2(技術概要説明資料)、様式3(技術詳細説明資料)で記述した内容と整合するように記入して下さい。

※既存のNETIS登録技術に関して記入する際、新技術・従来技術の記述と同じ内容(同一の視点)についてNETIS情報で確認できることを記入して下さい。

※品質・出来型

・様式2(活用の効果:品質)、様式3(耐久性、品質・出来形)の記載内容を転記して下さい。

※現場条件

・様式2(適用条件②:現場条件)、様式3(施工性:現場条件)の記載内容を転記して下さい。

※設計条件

・様式2(留意事項①:設計時)記載内容を転記して下さい。

※安全性

・様式2(活用の効果:安全性)、様式3(安全性)の記載内容を転記して下さい。

※施工性

・様式2(活用の効果:施工性)、様式3(施工性)の記載内容を転記して下さい。

※環境

・様式2(活用の効果:周辺環境への影響抑制)、様式3(環境)の記載内容を転記して下さい。

【比較表(様式4)の作成2】

7, 項目の追加

- ・様式2活用の効果「自由設定項目」に記載した場合は、「その他()」の欄に記入して下さい。
- 【例】 その他 その他
 (長期耐久性)(長期透過性)

8, 評価

- ・必ず従来技術との比較結果を下記の中から選び記入して下さい。

著しく向上: ◎

向上 : ○

同等 : △

低下 : ×

- ※従来技術を基準とし、新技術、既存のNETIS登録技術と比較するので、従来技術の評価は、全て「-」で記入して下さい。

9, NETIS番号

- ・NETIS上から検索した既存のNETIS登録技術のNETIS番号を確認し記入して下さい。
- なお、NETIS登録から終了した技術の登録番号は不要です。

【例】 KT-○○○○○○○-A

10, 備考

- ・特筆すべき事項などを記述して下さい。

11, 総合評価

- ・各評価項目か全体を通して従来技術と比較した結果を記号で記入して下さい。

著しく向上: ◎

向上 : ○

同等 : △

低下 : ×

- ※従来技術を基準とし、新技術、既存のNETIS登録技術と比較するので、従来技術の評価は、全て「-」で記入して下さい。

5. 申請書(様式1)の記入について

★登録申請書(様式1)記入時の注意事項★

申請書にご記入していただく内容の不備が大変多くなっております。

作成の際は必ず注意事項をご確認ください。

様式1

新技術情報提供システム(NETIS) 登録申請書

平成 年 月 日

受付地整等
国土交通省

関東 地方整備局長(北海道開発局長) 殿

ふりがな
会社名
ふりがな
代表者氏名

所在地

電 話

「公共工事等における新技術活用システム」の実施規約に同意の上、下記のとおり申請します。
なお、本申請技術は、NETIS 登録技術とは同一技術でないことを誓約します。

記

ふりがな※1

1. 技術名称： 様式2・3・4と同一の新技術名称と「ふりがな」を記入して下さい。

ふりがな※1
(商標名)： 商標登録している場合は、「商標名」と「ふりがな」を記入して下さい。

2. 担当窓口： 氏名

会社名
所属
所在地
電 話
F A X
E-mail

NETIS登録後、郵送物等をお送りする窓口となりますので、記入の際は注意して下さい。また、担当窓口は、関東地方整備局管内の住所でないと受付いたしませんので、他地整での記入の際は、あらかじめ新技術担当窓口にて確認願います。

※1: 技術名称は、その技術の内容及び特色が容易に理解できるものとして下さい。
商標がある場合に記入してください。

2014/3/28

【注意事項】

- ・申請書は必ずA3横・両面印刷とし、最終資料提出時に「原本」を1部提出して下さい。
- ・表裏2枚をのり付けしたもの、表裏1枚ずつのままのもの、上下逆のもの等で提出された場合は、受理できません。
- ・「ふりがな」と記載のある箇所にはふりがなを記入して下さい。
- ・英数字にもふりがな(読み方)をつけて下さい。なお、ひらがなやカタカナには必要ありません。

6. コンピュータウイルスについての確認報告書の見本

資料K-4

平成 年 月 日

新技術担当 殿

チェック日がウイルスチェック
日より前にならないように注意
して下さい。

〇〇(株)

新技術登録に際し、提出する電子媒体資料のコンピュータウイルス
(発見、感染、発病)についての確認報告書

コンピュータウイルスの(発見・感染・発病)について、異常がなかったことを下
記のとおり報告します。

記

新技術名称

登録番号(更新時のみ)

会社名

実務担当者名

TEL(外線及び内線番号)

E-mail

チェックした駆除ソフト名

チェックした年月日

【注意事項】

・最終資料で最下段にある「チェックした年月日」が印刷
されていない場合がありますので、提出時は注意して下
さい。なお、電子媒体の修正依頼があった場合は、再度
ウイルスチェックを行い資料を提出して下さい。

7. 電子媒体資料目次について

様式2、3、4は作成したファイルをそのまま電子媒体に入れて下さい。

例)〇〇工法電子媒体資料目次

ファイル名	サイズ	種類	
新技術情報入力システム(技術概要説明資料・様式2)	〇〇kb	lzh	
詳細説明資料(様式3)【申請用】	〇〇kb	xls	
詳細説明資料(様式3)【公開用】	〇〇kb	xls	
比較表(様式4)	〇〇kb	xls	
ウイルスチェック確認報告書(資料K-4)	〇〇kb	xls	
電子媒体資料目次	〇〇kb	xls	
電子媒体資料:〇〇工法パンフレット	〇〇kb	PDF	
" :2002年度▲▲学会発表資料	〇〇kb	doc	
" :特許申請写し	〇〇kb	doc	
" :試験データ各種	〇〇kb	PDF	
" :雑誌掲載記事	〇〇kb	doc	
" :類似工法歩掛かり	〇〇kb	jtd	
" :写真	〇〇kb	JPG	3枚

* 種類の項目については拡張子、またはソフト名のいずれかを記入してください。
 できるだけ汎用的なソフトで作成してください。
 あくまで作成例ですので収納されているデータが分かり易くなるように工夫してください。

【注意事項】

・電子媒体の内容を具体的に記入し提出して下さい。なお、電子媒体の修正依頼があった場合は、再度記入内容をチェックして下さい。

8. 提出書類一覧

＜提出して頂くもの＞

1. 登録申請書(様式1)・・・P25記入方法解説
2. 技術概要説明資料(様式2)・・・P1インストール方法、P2～17記入方法解説
3. 詳細説明資料(様式3)・・・P18～21記入方法解説
4. 比較表資料(様式4)・・・P22～24記入方法解説
5. 申請技術に関する資料
 - ・パンフレット類
 - ・技術審査証明報告書または評価書
 - ・室内実験に関する資料
 - ・試験施工に関する資料
 - ・現地施工に関する資料
 - ・現地施工箇所の追跡調査結果等に関する資料
 - ・学会等で発表した論文
 - ・工業所有権に関する資料

※特許 有り、出願中の場合差し障りがなければその写し。(請求項、権利者、発明者等が分かる書類)なお、発明者が社外または第三者の場合は、その人との権利関係書類の写し。

 - ・様式3において記述した添付資料・参考資料を、スキャナー等で読み込んだデータ
6. 電子媒体資料[上記5の内容を電子化し格納した物(CDまたはDVDのみ受付可)]
7. ウィルスチェック確認報告書(資料K-4)・・・P26記入方法解説
8. 電子媒体資料目次・・・P27記入方法解説

＜注意事項＞

- ・提出して頂いた資料は、ご返却しませんのでご了承下さい。
- ・①～⑦(登録可否確認後)は、1～5の資料をメールにてお送り下さい。
- ・最終資料提出時は、1～8の資料を紙媒体及び電子データで郵送にてお送り下さい。

〒270-2218
千葉県松戸市五香西6-12-1
国土交通省 関東技術事務所
施工調査・技術活用課
新技術担当
TEL 047-389-5127
FAX 047-389-5159
<http://www.ktr.mlit.go.jp/kangi/>
E-mail: ktr-kangi-netis@mlit.go.jp